特定非営利活動法人 呉こども NPO センターYYY 広報誌

やんちき通信

2018 年 2 月 25 日 発行 ￥200

177号

2月20日現在
子ども会員:186人
正　会　員: 36人
参加会員:　7人
賛助会員:231人
33団体

チョー楽しかった！ byなき（小5）

雪あそび

２月４日(日) @やわたハイランド１９１リゾート

ふわっふわの雪 イチゴのみつをかけて食べたーい！

つらら を初めて見た！

しりたがり　・・・・・・・・・・・・・・・・・2
おとな塾・アルデンテ　・・・・・・・・・・・3
雪あそび　・・・・・・・・・・・・・・・・・4
トロルなジンタ　・・・・・・・・・・・・・・6
ＴＦＣ55 が終わって　・・・・・・・・・・・8
きょうこの東京オトナ LIFE　・・・・・・・・9
舞台ウラはもっとゲキ的！？　・・・・・・・10
ちかちか文庫/アイスクリームキャノン　・・・11
トロルなジンタ　・・・・・・・・・・・・・12

やまもとかずこの知りたがりやトーク

寒〜い 2 月。ではありますが、ホットな話題がいっぱい！平昌オリンピックでは、若者たちのメダルラッシュ。男子フィギュアシングルスでは、羽生くんが期待通り金メダル、66 年ぶりの五輪連覇。一方、将棋界でも、藤井聡太五段が第 11 回朝日杯で史上最年少優勝。こちらも棋戦優勝の最年少記録を 63 年ぶりに塗りかえたのだとか。この勢いに乗じて、次々に若者が羽ばたいていけばいいなあ、ついでに寒さも吹き飛ばしてくれたらいいのになあ、と思ったりする今日この頃。

若者たち、頑張ってますね。親の、学校の、地域の、国の期待…めっちゃ大きなプレッシャーを感じながら、出来るだけ平常心で、ベストの力が発揮できるよう、いろんな工夫をしているようです。試合直前まで、好きなアーティストの音楽を聴いている、という話はよく耳にしますが、金八先生世代としては、手のひらに人という字を書いて飲み込む！を半分くらい信じていたりもします。(笑)

大事な場面で、私たちは緊張します。例えば大勢の前で話をしなければならない時、みんなから注目されることをイメージし、「上手くしゃべれるかな？」って考えます。すると、「胸がドキドキする」「血圧が上がる」「手足が震える」などの反応があらわれますが、これらは身体にもともと備わっているものです。胸がドキドキして血圧が上がるのは心臓が身体中に血液を十分に巡らせ、逃げる・戦うという動作を効果的にさせるためだし、身体が震えるのは、危機に直面して自律神経系がちゃんと働いていますっていう証拠なのだとか。つまり、このような本能的働きが生じるのは、自分を守り生き延びようとする心と身体の智恵なのだそう。

2/18 トロルなジンタの会場にて

まるで野生動物の話のようですが、現代社会に生きる私たちにとって、「生き延びる」ことは「周囲から認められること」「評価を得ること」と直結しています。ですからよりよく生きたいと強く望む人ほど、周りの評価を気にしてしまい、緊張しやすいようです。また、自己評価が低く、ありのままの自分を受け入れられない人も、過度に周囲の目を恐れ、緊張状態をつくりやすいそうです。

一般的に、緊張しやすい人は、他人の目を気にするあまり、緊張していること自体を隠そうとします。すると、かえって意識し、あがってしまいます。こんなときは隠そうとせず、「人前に出たら緊張するのは当たり前。ふつうのこと」と「あるがまま」の状態を受け入れ、「私の身体は大事な場面に備えてくれている。これは身体の智恵！」と身体に感謝してみてください。考えてみれば、生まれてからこれまで、正確に鼓動を打ち、血圧を調整し、神経と筋肉を動かし続けてくれている身体の方が、自身の考え以上に正確で賢いのですから。これが、もっとも有効なあがらない方法らしいです。いよいよ次は君たち受験生の番！まずは、お試しあれ〜(*^^)v

3月のアルデンテは…

—ちょっと芯のある大人をめざして—

アルデンテを続けてきて…

【日　時】3 月 15 日(木)13:00〜14:30
【会　場】生涯学習センター
【参加費】500 円（おやつ付き♪）
※準備の都合上、前日までに事務所へお申込み下さい。

Nextおとな塾

かっこいい英語の発音で歌おう

【日　時】3 月 13 日(火) 19:30〜21:00
【会　場】ビューポートくれ中会議室
【参加費】1,200 円（お茶菓子付き♪）

―啓発広報部おとな塾―

呉市のおさいふ

2月13日(火) YYY事務所 参加者15名

2月は毎年恒例「呉市のおさいふ」。新市長が就任して初めての予算編成、ちょっと興味をそそられる方もいるのでは？講師は、こちらも今年度初お目見えの呉市財政部財政課課長濵田純典さん。

新原市長と言えば、何と言っても"ワンダーランド構想"。「自然と調和した未来志向のイキイキした呉を構造」「女性と若者のチャレンジ支援と時代を先取る産業の創造」「世界に自慢できる交流都市への発展」の3つのビジョンを掲げている。これは将来的に目指す呉市の姿であり、『呉に行きたい!住んでみたいと思えるワクワクイキイキした町を創る。』というもの。でもその内容については、これから市民や専門家の意見を聞き担い手を集めて会議を重ね創り上げていくということらしい。

元官僚の新原市長は、とにかく正直で真面目な人だそう。予算の査定の時も「そもそもなぜ必要か」から突っ込んで話を聞かれ、4日半を費やす程熱心だったとか。(市長さんも職員さんもご苦労様です。)

こうして産みの苦しみを経た2018年度の「新市政手堅くスタート予算」は、総額988億3000万円（前年比0.8%増)。今まで景気が回復傾向と言われても呉ではあまり実感できなかったが、大手企業からの税収があがったり、雇用が増え生活保護費が減額になる等、ようやく明るい兆しも見え始めているようだ。

とはいっても、人口がどんどん減ってきている呉市では、一般財源が８%減、地方交付税も実質は1.9%減と財政は苦しくなっている。赤字が増えている事実は楽観視できない。

そんな中、いくつか新規事業も発表された。その一つは「企業家支援プロジェクト」。文字通り、市内で起業したい人を支援するというものだが、資金をクラウドファンディング型ふるさと納税で集めるという。つまり、市としては、事業の選定資金を出すだけで実施できる。資金が継続的に集まるかどうかはわからないが、面白い試みではないだろうか。(他都市がすでにやってるんだろうけどね。)

講師：濵田純典さん
（呉市財政課財政課長）

また、「この世界の片隅に」の原作者こうの文代さんが寄付された畝原の土地に、主人公すずさんの嫁ぎ先の間取りを作ったり、タンポポの花壇をつくったりして、聖地巡礼スポットにする事業も今年度盛り込まれているのだとか。この土地は車一台がやっと通れる道しかなく、周辺の住人にも配慮が必要らしいが、ちょっと楽しみ。

他にも、大和ミュージアムへのAR(拡張現実)展示導入、タブレットを活用した教育の推進、新産業団地造成の検討、緩やかなお節介事業なんてのが新規事業としてあがっている。

市民の声も聞きながらのワンダーランド構想実現を掲げている新原市政は始まったばかり。どんなワクワクイキイキが生まれるか、一緒に考える人がどんどん増えるといいねっ！　(山本さなえ)

―子どものまわり研究会―

アルデンテ

～ちょっと芯のあるおとなをめざして～

2月8日(木) 参加者４名

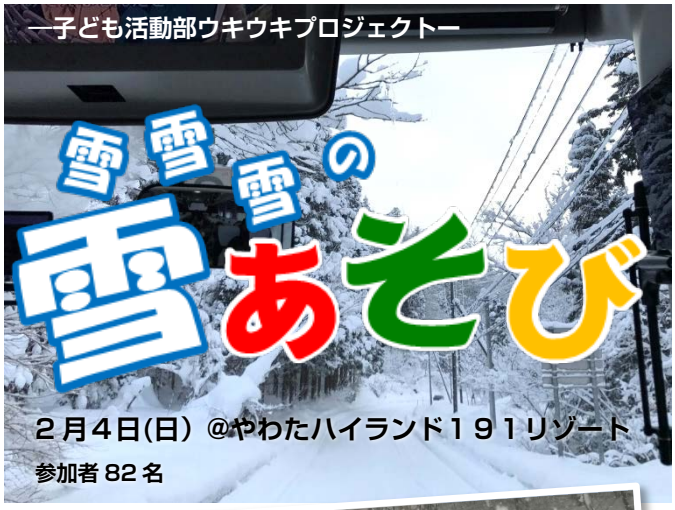
中国新聞「くらし」より

子どもの欲求 忘れない

～母親の優先順位～

2017年10月3日の記事をみて、私のことだと思った。「親子になる」と題したそのコラムには、著者（芹沢俊介　評論家）が、ある保護者から寄せられた子どもに関する相談、それに対するアドバイスが掲載されていた。それは、かいつまんで言えば、３～４歳の子どもが言うことを聞かないという相談者に、子どもの「ねえ、ねえ」という問いかけに、ちゃんと対応しているか、自分の都合ばかりを優先させてはいないか？という内容のものだった。

息子が保育園の頃「おうちでなんて呼ばれてるの？」と聞かれ「ちょっとまって」と答えていたという笑い話をしてくれたNさん、先生から聞いてハッとしたのだとか。実は私も家事の最中に子どもがまとわりついてくるのをうっとうしく感じた時期があった。そんな時、こうしてあげないとって言われても…本当はわかってるけど余裕のない時もある。だから、「みんなそうだよ」と、昔の私と同じその人の方に立って見守りたいと思う。　(立間)



熱き闘いとはウラハラに平昌は信じられんくらい寒いらしいけど YYY の雪あそびも寒かった～。

高速を降りると道は真っ白、身動きできなくなった乗用車があちこち。(福井での 1500 台の車の立ち往生は他人事じゃない～。) 行先変更した去年の経験があるので、なんとかなる、とは思っていたけど、191 に着いてホッとした。が、すごい雪！ベテランの N さんが「新雪のところは私の腰まで埋まる～。子どもらが遭難したらいけんけー、１か所に集めた」と言いに来るほど。

たっぷりの雪でめっちゃ遊んだ。スキー・スノボ・ソリ・雪玉つくり…。一番人気はかまくらつくり。子どもたちがソリで雪を大量に運搬したり、掘ったり。いくつもかまくらが立ち並び「団地よ。回覧板もまわすよ」とニコニコ。「来年はランタンを持ってきてかまくらに入れたいねー、絶対きれいじゃろうね～」。ほかにも新雪の上を転げまわったり、ダイビングしたり、子犬のように駆けまわったり。中にはアイスクリームのようにペロッと食べちゃう子も。私も子どもの頃、雪に練乳かけて食べたことを思い出した。おいしかったな～。雪に変なものが混ざってなきゃあ、かき氷の蜜を持って行ってみんなで食べるのに～。

雪がふかふかで はじめはうまりそうでこわかったけど、雪の上でゴロゴロするのはとって楽しかったです。(こみねあおい 5才)

私はそりをして遊びました。そしてエスカレーターがおもしろかったです。高いところからすべるのが、少しこわかったけどすべったら、とても楽しかったです。(平美月 10才)

初めて参加させていただき、本当に楽しくて、大げさでなく、一生の思い出になり、行けて良かったです！足が抜けないほど埋まるなんて生まれてはじめて。雪合戦も楽しかったです。本気になりました。バスレクも子どもたちの心に響いたみたいです。私も、感心しっぱなしでした。素晴らしかったです。来年も参加したいです。(母)

雪合戦やたからさがしをしてとても楽しかったです。来年も来たいです。（祖田けいすけ 10 才）

おたからGET!

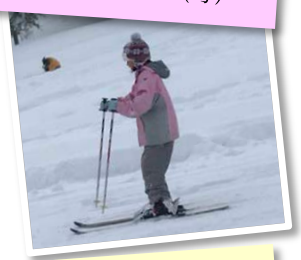
オトナ vs コドモ

午後からの全体あそびの宝探しも、雪がふかふか…投げただけでゼリーが埋まり、宝石のようにきれい。子どもも大人も宝をいっぱい集めて、「取ったどー！」。その後みんながやりたいと言っていた「雪合戦」。オトナ対コドモで投げ合った。人にものを投げても怒られないのって雪合戦くらいよね(笑)。途中、子どもたちが「使っていいよ」と雪玉を大人の陣中に持ってきた。「敵に塩を送られた」と言いながら嬉しそうな大人。初参加で不安そうだった人も楽しそう。マジで雪玉を投げ合って、大笑いして、キャーキャー言って、みんなすごくいい顔してた。スタッフとして写真を撮っていた中 2 の陽也が「楽しそうなみんなの姿を撮るのが楽しい」と言ったのも嬉しかった。

恒例になっている、子どもたちによるバスレクも、2台とも盛り上がったよう。1号車のなぞなぞ大会は「自分も問題出したい！」と出題者が次々と飛び入り。今年も子どもたちの「やりたい！」「楽しい！」があちこちで見られた雪あそび。これからもそんな「場」を作っていきたい。　　（子ども活動部長　久保直美）

コドモの勝ち〜!

今回は娘の希望でスキーをし続けました。昨年に比べると一段とたくましくなって黙々と大雪の中をハの字ハの字で登っていく後ろ姿にジーンときてしまいました。来年は一緒にすべれるといいな〜（母）



初めて参加させていただき、本当に楽しくて、大げさでなく、一生の思い出になり、行けて良かったです！足が抜けないほど埋まるなんて生まれてはじめて。雪合戦も楽しかったです。本気になりました。バスレクも子どもたちの心に響いたみたいです。私も、感心しっぱなしでした。素晴らしかったです。来年も参加したいです。（母）

バスレクの司会参加に、6才の娘が自主的に参加したことに驚きました。子どもにとってはいい体験でしたし、私にとっては嬉しい発見でした。（母）

バスの中も楽し〜い

人形劇×音スキンシップ®JINTAッタ！

♪トロルなジンタ♪

人形劇サークルトロル

ユッキーことオーノユキヨさん

「音スキンシップ®JINTAッタ」ユッキーの思い

始まりから終わりまで、音楽でストーリーを綴っていくこと。
音楽を自由に感じてもらうこと。
自由に表現してもらうこと。
カラフルな色を取り入れること。
笑顔あふれる演出。
自分が愉しむこと。
（音スキンシップ®JINTA ッタ　HP より）

私たち、人形劇サークルトロルは・・・

「子どもが居ても出来るコト」じゃなくて
「居るから楽しいコト」を！

トロルのメンバーは、子育て中のお母さんばかり。子どもと一緒に小道具作ったり、違うよって指摘されながら台詞覚えたり。時には子どもの話をしながら練習することも。人形劇も子育ても一緒にする仲間です。その中で自分も育ってきました。舞台の中で観客の反応に一喜一憂、客席の歓声や笑顔の後押しがあるので続けられています。

それに演じるのって楽しい！初めは緊張してガチガチになってても、演ってるうちに皆ハマっちゃう。

子育てと介護が同時進行でしんどかった時期、トロルの活動からずいぶん元気をもらいました。今は、子どもと一緒に楽しみながら活動したいという人がいつでも来れるように、トロルを続けてここに居るのが私の役目だ●＾ｏ＾●”と思っています。

あなたも一緒に人形劇やってみませんか?!
「人形劇サークル トロル」メンバー募集中！
人形劇サークルトロル米本

２回目のコラボ

私たちにとっては２回目の「トロルなジンタ」。一緒にやる！と、この日程が決まってから１年間、ユッキーの曲をトロルの公演プログラムに取り入れ、オープニングや手あそびをして、心の準備をしてきました。

いよいよ本番、ユッキーは、子ども達のハートをキュッとつかんで、紙一枚であれだけ遊んで…みんな目がキラキラ。やっぱりホンモノはスゴい！

2月18日（日）
ビューポートくれ２Ｆ大会議室
参加者約８０名

色とりどりの花紙が宙に舞い　ソックちゃんのダンス！
♪ズンタッタ～♫ズンタッタ～♪ズンタッタ～
子どもの笑い声、大人の笑顔！♪ズンタッタ～♫

日曜日ということで、トロルのメンバーもジンタのユッキーさんも子連れで公演。母たちが舞台のリハーサルをしてる間、子どもたちはYYYスタッフと会場準備のお手伝い。おしゃべりしながら飾りつけの花紙を開いたり、シートを敷いたり…。会場内の壁には、沢山の旗が飾られ、花いっぱいのアーチがお出迎え。

いよいよ公演本番。お花のように可愛く華やかな衣装のユッキーさんが、アコーディオンを弾き歌いながら登場。そこに、色とりどりの靴下に目ん玉を付けた「ソックちゃん」が、たくさん登場。ソックちゃんの軽快なダンスに、子どもたちの視線はくぎ付け。すると今度は「♪ズンタッタ～♫ズンタッタ～」と何やら楽し気な歌が…。子どもたちも、周りの大人たちもリズムの良い音楽に心が躍り、ユッキーさんの掛け声で自然と体が動きだす。音と一緒に親子のスキンシップ。内緒の話をしてみたりママのお膝でこちょこちょしたり、子どもの笑い声と大人の笑顔が会場を包む。

トロルの人形劇「三びきのやぎのがらがらどん」は、みんな食い入るように見ていた。以前一緒に人形劇をしていた私は、トロルやヤギを演じていた頃を懐かしく思った。心に響く詩の朗読もあったのだが、純真無垢な子どもの方が響くらしい。残念ながら私には響いてこなかった…。逆さにした傘に丸めた花紙を沢山いれて、くるくるってすると色とりどりの雨が宙に舞って、とってもきれい。子どもたちは大喜び。最後は、風船の中に小豆を入れた手作り楽器を持って会場内を練り歩いた。音楽に合わせて歩く姿は、カーニバルのようでとても楽しそうだった。

今回、何よりもうれしかったことは、高キャンに来ていた子どもたちが母となり父となって、子どもと一緒に観に来てくれたこと。世代が引き継がれていく感じがした。　（鑑賞部　岡本）

―特集 15 周年記念事業―

全国ツアー「TFC55 LEVELIV」

東儀秀樹×古澤 巌×coba

あれから一ヶ月、あの感動が忘れられない。

1 月 26 日(金)19:00～ 呉市文化ホール 参加者およそ 1,100 名

コンサート以降ＹＹＹの事務所では、『凄かったね!良かったね～』『最高だった！』『3 人ともかっこよかった』と、声をかけられたと言う人続出。ＴＦＣの興奮覚めやらず、誰かと分かち合いたい！喋りたい！ということらしい。後からあとからうれしい声が届いています。こんな現象初めてかも❤❤やってきてよかった。あの感動をもう一度という思いで、今月号では、たくさんの感想の中ほんの一部を紹介します。

わが家は家族…いや一族総出でＴＦＣ55 ライブコンサートに参加しました(笑)「東儀さん？東儀さん来るなら行くわ♪」と、80 代の母ももちろん参加です。途中チラッと見ると皆さんと一緒に立っていたので、後日立っとったね(*^^*)と言うと、拍手だけじゃないんよ。足もこうやって！と、ステップまで踏んでいたらしいです。「東儀さんもこうしてたでしょ！」って。あんなに華やいだ顔ではしゃぐ母を見たのは初めてです。多分他の 70、80 代の方々も小学生も人生初のスタンディングなのでは(￣ー+￣)!? (M.Y 女性)

素晴らしい夜だったね！いい席だった！ありがとう☺私の隣は多分 70 代のご夫婦と、反対側は小学生の男の子二人連れた若いママ、低学年の男の子二人はノリが良くて、通路に出て踊ったりノリノリで、多分お母さんはヒヤヒヤだったと思うけど、私は内心、止めないでいいよって思ってた！だって私だって、秀樹さんに、もう若くないんだから無理しないで！って言われても踊りたかったから！久しぶりに揺さぶられるように楽しく飽きないコンサートだったよ！今でも思い出すと楽しい気分になるわー！(K.T 女性)

着物を着て出てきたところがおもしろかった。ヴァイオリンで鳥の鳴き声の音をだしていて凄いと思った。ピアノとオルガン（電子）を片手ずつでひいていたからすごいと思った。激しい曲になったりゆっくりな曲になったりして行っておもしろかった。(小学生女子)

来てよかった!嫌なことも吹き飛びました。それぞれの楽器、今まで聞いたことのないような音でカンドウしました。(50 代女性)

パワフル！熱いステージ！と興奮の余韻にひたりながら会場を後にした。それぞれ強い個性の三人の演奏が、みごとに一つに溶け合っていた。三人の演奏ははじめてだったが、男が観てもイイ男の東儀さん、ぶっきらぼうな顔に汗を光らせながら体をのげぞらせての演奏する coba さん、演奏後にはにかんだような笑みを浮かべる古澤さん…奏でる音楽はもちろん、人柄（よくは知らないが）にもすっかり惚れこんでしまった。二度、三度でも聞きたくなる演奏会だった。(N.H 男性)

三つの楽器の音色が凄くあっていて感動しました。トークもおもしろくてたのしめました！バックのバンドの方たちの演奏もとってもよくってもう最高でした！(中学生女子)

「え！？何これ？すごすぎる！！」一曲目が始まった途端、想像を越えるパフォーマンスで、テンションはマックスに！三者三様の素晴らしいテクニックに目を見張り、醸し出すハーモニーに心打たれました。何より演者のお三方が楽しんでいることで盛り上がる会場。立って！立って！とあおられ、手拍子、足拍子で汗だくの私！いまだ、興奮冷めやらず、こんなコンサートに呉で会えるとは本当に幸せでした。感動をありがとうございました。(A.N 女性)

この楽器たちは曲のジャンルが違いすぎではないのか。コンサートのパンフレットを見た時、ヴァイオリンと篳篥とアコーディオンは合うのか想像がつかなかった。初めて 3 つのハーモニーを聴いた。すると感動と同時に受験への不安や悩みも忘れる事ができ、その瞬間涙が溢れた。後半では面白いトークで会場全体も盛り上がって楽しかった。そして私の中で忘れられない 1 日となった。また機会があれば、絶対に見に行きたいと思う。(Y.K 中学生女子)

TFC55コンサートを終えて

ポスター効果を実感。これからも「君に届け」の思いをこめて、はり続けます。

2/21 付朝日新聞の天声人語に大学の立て看板規制の話が掲載されていました。筆者は大学時代、音楽サークルの仲間を集めるために、看板をつくり、その前に一人座り、話しかけてくる人を一人ずつ仲間にしていったそう。情報伝達の主流が SNS になり、タテカン文化が無くなることをとても残念に思っておられるようです。京大さえもタテカンを規制の方針なのだとか。文末は「ネットで誰もが発信できる時代になった。垣根のない空間ができるかと思いきや、むしろ主張や好みによる分断が起きている気がする。板に大きな字を書くという単純さが懐かしくもなる。押しつけがましく暑苦しい。でも誰かに届けと願う。そんな手作りのメディアが追いやられるのは、いかにも惜しい。」と括られていました。

先月の TFC コンサート、おかげ様で大盛況でした。ありがとうございました。

終わって、アンケートを手にしていたところ、次のようなコメントがありました。「以前廿日市公演でよかった。とても心に残った。そしたら街の木に(3 人のポスター)貼ってあってもう一度聴きたくて申し込んだ。やはり凄い心に残る。」

YYY になって 15 年、おや子劇場時代も含めるともっとですが、舞台鑑賞事業の度に、市内のあちらこちらにポスターをはって歩いています。お店にお願いしたり、バス停や、公園のフェンス、選挙のポスターが貼ってあってるようなところ（勝手ながら、たぶん OK!よねって思うところ）を選んで、はって歩きます。でも、正直なところ手間のかかる割に効果があるのかしら？と半信半疑でした。でも彼女のメッセージを目にし、ポスターをはり続けてよかった！とても嬉しい気持ちになりました。

続けていれば、きっと誰かに届く！んですね！

（鑑賞部長　福田）

きょうこの東京オトナLIFE ライフ vol.4

年が明けたらあっという間に毎日がすぎていきますね！私の職場には年度末に向かって繁忙期が押し寄せてきております。インフルエンザにも負けないよう、今年も頑張ります(＾ω＾)

年末年始、社会人になって以来初の、有休を合わせての大型連休は、幼馴染みと生口島の未来心の丘に行ったり、神戸で大学時代の友だちと新年会をしたりと、かなり充実しておりました。12 月の土日には、伊豆・熱海旅行にも行きました！お互いの仕事の話をしたり、夜ふかしして話したり出来て、最高の休みになりました！

さて、今日はそんな色々あったくせに、くだらない話をしようと思います。

みなさんはコンビニのイメージカラーってパッと思い浮かびますか？私の意見では、ローソンだと青、ファミマだと緑、セブンイレブンだとオレンジ、です。誰が何と言おうと、そうです。

生口島未来心の丘にて

しかし、わたしの知り合いに「ファミマは黄緑、セブンイレブンは緑」と言う人がいるのです。全くけしからんと思いませんか？確かに、セブンイレブンはよく見るとオレンジと赤と緑を使っていますが...緑といえばファミマでしょ。しかし、よく考えるとファミマも緑と青を使っているんですよね。でも、緑のイメージが強い。私がどうしてそう思うのか考えた結果、そのコンビニの壁掛け時計のフレームの色をイメージカラーとして記憶していることが分かりました。

どうだ！お客様がよく見る時計の色こそ、真のイメージカラーだ！ぐうの音も出んやろ！と言ってやりたいです。

この記事をご覧の皆さんは、どう思われますか？これ以上の説で論破できそうな方は、是非わたくしにご挑戦ください。笑

空@空☆ガ。の

舞台ウラはもっとゲキ的！？

～身近なものから遠くのものまで、ゲキ(劇)的な情報を毎月お届けシマス!!～

う・う・うまれるよ～♡
おゆうぎかいが気になるよ～

いよいよ明日、3回目の帝王切開、という日にこれを書いています。とうとう産まれるね～と送り出してもらって、ようやくちょっとその気になったところ(笑)昨日までなんだかんだバタバタしてて、まだ見ぬ小さい人にドキドキするのは後回しにしてました(笑)

年明けは、PTAコーラスの最後の発表会。パンパンのお腹にまわりの方がヒヤヒヤ(^o^;)　出番までの待ち時間を座ってすごせるよう気を配ってもらったり、練習も毎回ママ友が車出してくれたりと、伴奏助っ人として始めたのが、私の方がとても助けてもらって、最後までやりとげられました(^^)　文化ホールのスタインウェイも触れて、楽しく演奏できて、締めに豪華な花束もいただいて、嬉しかった！

2月になると、おゆうぎ会モードに突入！年長の坊ちゃまは恒例の日本舞踊なので、衣装づくりはなし。プログラム紹介やオープニングなど、年長さんはやることがたくさんあって、練習がんばってます！お嬢の衣装は、去年の流れで～と思ってたら、「なるべく負担と手間がかからないようにやった方が～」という声が最初に出て空気が固まった…(笑)　なんとかメインとなるワンピースを決め、子どもから背中に羽根がほしい！という声があったので、つけようという話に。すると「つけ方がわからない」「難しそう」「まったくイメージがわかない」…(゜〇゜;)その夜、去年中心で動いたメンバーで飲み会。「私らだってやってみんとわからんし！！」「その試行錯誤が楽しいのに～」とやる気爆発！翌日さっそく試作したのでした(笑)

具体的に物ができると、少しずつ、やってみようか～みたいな空気になり、集まって作業。ワンピースにどんな飾りをつける？頭はどうする？など、物を囲むとだんだん楽しくなってきて、なんとかできそうな雰囲気になってきました。よかった！

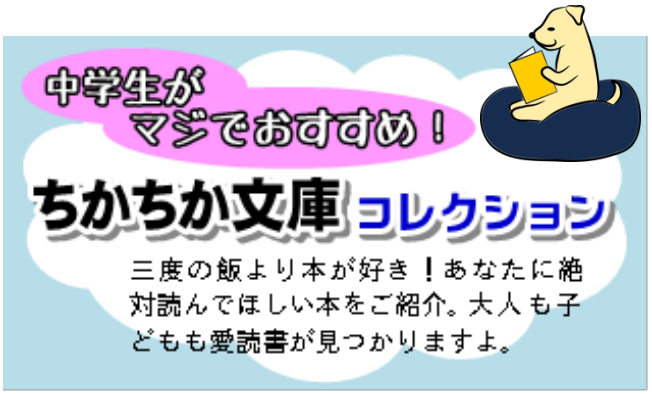
というとこまできて、私は頭の飾りを作るための型紙を昨夜制作。できる最後の仕事はやった！安心して入院(笑)あとは任せた！

2月は事務所も産休に入ったので、ママ友とランチに行ったりもできました(^o^)そしてさっき入院、ヒマになったので原稿を書いてますが、正直、明日の手術のことよりも、本番に足りん物ないかなとか、卒園式に向けてママ友と作るスライドショーの段取りとか、そんなことばっかり気になってます(笑)おかげで不安にならんので、まぁいっか！ごめんね3人目(笑)

3人産んでる友だちはみんな、3番目は無条件に可愛い！と言ってるので、産んでから検証します。ほんまかいな(笑)では、いってきま～す！

うまれたよ！

2月13日、無事に男の子がうまれました。命名「應(ヨウ)」母子ともに元気です。これからよろしく（●＾o＾●）です。



毎日寒いですね～。今回は夏川草介さんの『神様のカルテ』を紹介します。これは、ドラマ化、映画化されているので、知っている人も多いと思います。原作の小説もとっても魅力がありますよ♪

主人公「イチ」こと栗原一止は、「24 時間、365 日対応」の病院「本庄病院」で働く。夜間の救急が数十人にもなるほどの多忙な日々を送っていたイチに、「『医局』へ移らないか」と誘いが来て…。

悩むイチ。そんななか、1 人の老婦人と出会う。その患者は「手遅れの患者」。本来、医局ならば受け入れて治療することはない。イチはその老婦人とひとつの約束を交わし、「本庄病院」だからできる「医療」のカタチを見つける。

忙しい毎日を送るイチの毎日を支え、心のいやしとなっているのが、「御嶽荘」での日々。ここでは「ドクトル」と呼ばれ、「男爵」「学士殿」と、妻「ハル」とのひとときがイチを助けていた。

私はこの本を読んで「えっ、病院ってこんなに大変なん！？」とまず思った。35 時間連続で働いて、ハルさんとの記念日も忘れるぐらい忙しい日々を送るイチはすごい！！と思いました。イチは、患者さんと真剣に向き合います。どんなに重症でも、その患者さんにいちばんいい治療を―。

小説は、ドラマや映画と違って気に入ったところを読み返せます。この本には、たくさんの名場面、名言があります。きっと心に残る一場面が見つかるはず☆気になる「神様のカルテ」の意味は―？ぜひ小説版を読んでみてください！！

アイスクリームキャノン

旬のお気に入りアイスとつづるコラム(ノ≧ڡ≦)

ちょっと過ぎてしまいましたが、今回は思い出いっぱいの冬休みの話を。ひとつは、友達と自分の家でクリスマスパーティをして、一発芸として平野ノラさんをしたことです。初めは空気が冷えるのが不安でしたが、想像以上に盛り上がりました！後から、その場にいなかった友達からもツッコミを貰え、嬉しかったです(笑)　母が昔着ていたオレンジのスーツを着たのですが、この私の写真をばあちゃんに見せてみたら「母さんに似て、よう似合っとる」とか言って、仮装の趣旨を理解してくれませんでしたが何となく嬉しかったです(笑)　自分じゃないみたいで不思議な感じでしたが、面白かったのでまた機会があったら何かの仮装芸がしたいです！笑

そして元旦には毎年恒例、音戸の曾祖母の家に家族が揃って食事をしました。相変わらず、曾祖母は元気で嬉しいお年玉もくれました！計画的に、大切に使いたいと思います。

半年ぶりに会う従弟は言葉をハッキリ覚え始めていて「キュウリ、バナナ…チュブチュブ(←YouTube のことらしい)」など言っていてビックリ。次に会った時は私の名前を教えようと思っています！弟からは、「かのん」と呼び捨てで呼ばれているので、名前よりも「お姉ちゃん」って呼ばれたいです。私は喋る事が好きだから、たくさん話したいです。˚+. (・∀・)˚ +.˚

冬休みムードが幸せだったので、ついつい生活リズムを乱してしまいましたが、先輩も先日センター試験へ挑みに行き、次は自分だとますます自覚を持ち始めました。普段の生活でも、オンとオフの切り替えを大事にしたいです。

最後に、新年 1 発目のアイスクリームは森永の「パキシエル」でした！これは箱で 7 本入りなのですが、チョコ好きにはたまらないです！初めて食べた時の衝撃…今でも覚えてます。笑

人形劇×音スキンシップ®JINTAッタ！

2月18日（日） ビューポートくれ 大会議室

♪トロルなジンタ♪やったよ！♪

寒さも和らぎ、お出かけ日和。パパやママ、おばあちゃんと一緒に子どもたちがやってきた‼　音のスキンシップで心がほぐれる。会場内は、笑顔と笑い声に包まれる。詳しくは、中のページで…。

【発行日】2018年2月25日(毎月1回発行)【発行責任者】米本美千恵
【発行元】特定非営利活動法人 呉こどもＮＰＯセンターＹＹＹ 〒737-0051 広島県呉市中央３丁目11-12PANビル3F
【連絡】0823-24-5646【WEB】http://kure-yyy.org